

子どもの頃、父と一緒に切手を集めていました。父は「記念切手」が発売されるたびに、シート（通常は 20 枚）で買って、そのまま使わずにファイルに綴じていました。私はどういうわけか記念切手にはほとんど興味はなく、普段から郵便局の窓口で売っている「普通切手」に興味があり、普通切手ばかり集めていました。それも、「銘付き」「カラーマーク付き」というものが収集対象でした。「銘付き」というのは「大蔵省印刷局」といった発行局の銘がある一枚、「カラーマーク付き」というのは、印刷カラーの色見本のようなものがある一枚です。いずれも 100 枚のシートに 1 枚だけの貴重品です。この収集は現在でも続いています。

数ある普通切手の中でも、私が一番好きなのが「55 円まりも」です。日本で過去に発行された切手の中で、五指に入るすばらしいデザインの切手だと思います。現在でも地方の小さな郵便局で丁寧に頼むと「売れ残り」を探してくれることがあります。もちろん郵便局では額面の 55 円で売ってくれます。ほかにも、「25 円紫陽花」「35 円ホタルイカ」「45 円水芭蕉」「65 円馬はにわ」「75 円オオムラサキ」なども美しい切手でした。

先日、附属小学校の 4 年生数人が研究室を訪ねてきました。「プロジェクト学習」で「マリモ」について調べて、いろいろと聞きたいということでした。さっそく、研究室で育てているマリモの細胞を、ツァイスの顕微鏡で見せてあげました。マリモ（緑藻）の正体はこの細胞の集まりです。子どもたちは、透明な細胞膜に囲まれた美しい緑色の細胞に歓声をあげていました。

